

下野市立国分寺中学校

1 学校課題 研究主題

「主体的に学ぶ生徒の育成を目指して」
～学習指導要領改訂の趣旨を捉えた授業の構築～

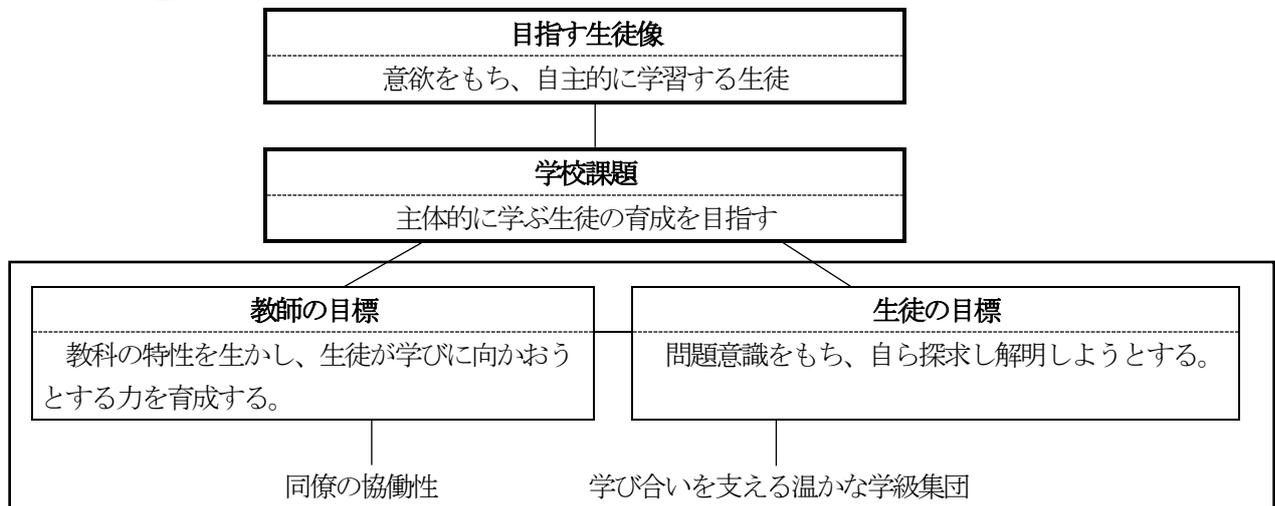
2 研究計画

(1) 主題設定の理由

令和3年度より、平成29年3月に告示された新学習指導要領が全面実施となる。総則には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極めて再構成し、新たな価値につなげていくことができるようにすると記されている。

そこで、改訂のポイントである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、各教科等における特性を生かし、生徒が主体的に学びに向かおうとする力を育成していきたいと考えた。そのため今年度は、「学びの共同体」の授業スタイルを継続し、新学習指導要領における「主体的に学ぶ」姿とは生徒のどのような姿なのかを教職員で研修を重ねて理解に努め、学習指導要領改訂の趣旨を捉えた授業を構築していくことをねらいとして研究主題を設定した。

(2) 研究の構造図



(3) 研究のねらい

- ①新学習指導要領の「主体的に学ぶ」姿を考え、理解に努める
- ②学び合いを生かした授業の実践
- ③学びのある授業づくり
 - ・学びの共同体の理念を取り入れた授業づくり
 - ・生徒自身に課題設定をさせる。
 - ・見通しをもって主体的に学びに向かおうとする授業づくりを目指す。

3 研究内容

(1) 学びを中心とする授業の改善

4月当初、今年度の研究課題についての共通理解と学習観の共有を行った。今年度の課題の中では、新学習指導要領における「主体的に学ぶ」姿とはどのような生徒の姿なのかをとらえることに焦点を当てることとした。教科部会では、生徒が主体的に学びに向かう授業づくりを目指すために、見通しをもてるねらいの示し方の工夫、生徒自身が課題をもち、見通しをもって解決できる学習の流れの工夫を協議した。また、7月と12月に授業アンケートを実施し、授業を生徒が評価し、結果を数値化することで自分の授業を生徒がどう感じ取っているか考察し授業改善に生かした。生徒の学びを支えることを意識した授業づくりの必要性があることを共通理解した。

(2) 授業研究会の充実

今年度も、年間でグループを組み、一人一授業を公開し、授業研究を行う予定であった。しかし、コロナ禍の影響もあり、授業形態などを考慮し、研修内容を新学習指導要領に沿った学習指導案の作成と授業実践、そこから成果と課題を得るものに変更した。一人一人が学習指導案を作成することで、疑問点や課題が浮かび上がった。その課題を解決するために自主的に研修したりするなど、職員全員が意欲的に取り組んだ。

S&U コラボ授業研究会では、授業参観の視点を「主体的に学ぶ生徒の姿」「主体的に取り組む態度の評価方法」に絞り、生徒が主体的に学びに向かう授業づくりについて意見を出し合い協議することができた。講師の田村岳充先生の講話では、授業の事例をもとに、「生徒が学習に自己関連性をもてる課題」「生徒の学びの姿のどこを見とるか」「振り返りの重要性」について改めて学んだ。

授業研究会研修内容

月	実施内容	教科
4	学習指導における共通理解	理科
5	一人一授業に関する研修 6月～2月	各教科
10	S&U コラボ事業 (授業研究会) 講師 田村岳充 先生 (宇都宮大学共同教育学部助教)	1年数学



10月のS&U コラボ授業研究会

(3) 学びのある授業づくり

本校では、「学びの共同体」の理念を取り入れ、教師が生徒の気持ちを共感的に捉え、寄り添うことを軸とした指導や「聴く」ことを大切とした授業づくりを継続している。また、今年度は以下の方策を併せて実践し、生徒が主体的に学びに向かう授業づくりを目指した。

- ・生徒が授業の見通しをもてるねらいの提示の工夫
- ・生徒が明らかにしたくなる学習課題の設定
- ・生徒が思考する時間の確保と教師の見守りに即した授業展開の工夫
- ・その1時間の学びを振り返り、新たな学びに目を向けさせるための工夫

4 成果と課題

(1) 研究の成果

年間を通して、教師が積極的に研修に参加し、新学習指導要領について理解を深めようと努め、新学習指導要領における「主体的に学ぶ生徒」の姿を職員全体で真剣に考え育成するための授業づくりを行うことができた。実践についてのアンケートでは、見通しをもたせるための単元導入時の学習予定の説明、生徒の興味ややる気を引き出す導入の工夫、互いに問題を出し合ったり確認し合ったりするペア活動、振り返りシートの活用、本当にそうなるのか批判的に考えて実験し確かめる授業などの取組が挙げられた。その結果、「苦手な生徒も前向きに取り組めた」「繰り返し行うことで既習事項を踏まえて自ら課題を見つけようとする様子が見られた」「生徒が教え合うことで安心したり分かったという達成感を味わえる」という成果が見られた。また、一人一授業の実践を通して、「来年度に向けての良い刺激になった」「実際に実践してみることで来年度に向けての課題が見えた」という成果が挙げられた。限られた条件の中での実践だったが、自分の教科だけではなく他の教科のものを参考にしながら、さまざまな視点から生徒の主体的な学びを支える授業づくりを目指すことができたと感じる。

今年度唯一行えた授業研究会では、協議における教師の意見から、生徒の学びの様子とクラスメイトや教師の関わりとの関係を捉えられたように感じた。小グループ協議により、発言しやすい雰囲気になり、活発に意見交換がされていた結果だと思う。先輩後輩関係無く、お互いに支え合う同僚性が見られる研修となった。

(2) 今後の課題

実践についてのアンケートでは、「教師側が設定した課題が多くなってしまった」「課題設定に支援を要する生徒への配慮が足りていなかった」「課題設定をさせる場面ですべて決められない生徒への支援策が必要」「導入で盛り上がったが興味につながりにくかった」「授業の感想ではなく振り返りになる言葉かけをしていきたい」「指導案作成をしたが内容が正しいのか不安が残る」などの課題が挙げられた。また、今年度は実施できなかった一人一授業公開を来年度はぜひ実施したいという声もあった。作成した指導案をもとに授業実践や授業研究をし、授業改善に努めたい。

今年度の実践から得られた新たな課題を職員全体で共有し、来年度の研究課題をさらに吟味し、学校全体で取り組んでいきたい。